

国語科学習指導案の分析

—新学習指導要領で求められる指導と発問—

Analysis of Japanese Studies Teaching Plans

—Needed Teaching Methods and Questions Regarding the Newly Introduced Course of Study—

森 成 美

要 旨

平成29年3月、新学習指導要領が公示された。小学校は平成30年度から移行期に入る。「教科教育法 国語」の授業では、最終の15時間目に学生に学習指導案を書くことを課している。学生が書いた国語科学習指導案を分析し、新学習指導要領で求められる指導の在り方を述べたのが本論である。主体的と称して活動するだけの授業にならないように、「深い学び」のある授業の在り方を発問の視点から考察した。

キーワード：新学習指導要領、正確な理解、適切な表現、学習指導案、発問

1 はじめに

平成29年3月公示、新学習指導要領（以下、新学習指導要領とする。）の小学校国語科の目標は次のとおりである。¹⁾

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（下線は引用者による。）（p11）

それに対し、平成20年3月公示、現行学習指導要領（以下、現行指導要領とする。）の小学校国語科の目標は次のとおりである。²⁾

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。（下線は引用者による。）（p 9）

下線部を比較すると、現行学習指導要領では、「適切に表現し正確に理解する」であるのに対し、新学習指導要領では、「正確に理解し適切に表現する」と「表現」と「理解」の順序が逆になっている。なぜなのか、調べてみた。『小学校学習指導要領解説 国語編 平成29年6月』には次のように示されている。

このことについて、『小学校学習指導要領解説 国語編 平成26年6月』（文部科学省）では、「**正確に理解**する資質・能力と、**適切に表現**する資質・能力とは、連続的かつ同時に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要であることから、今回の改訂では、「正確に理解」、「適切に表現」という順に示している。（下線は引用者による。）」と解説している。（p11）³⁾

児童が「適切な表現」するためには、テキストに書かれた情報の「正確な理解」が必要であるから、「理解」を先に置いたということである。テキストに書かれた情報がきちんと読み取れていないのに表現へ誘う実践が散見させることへの警鐘とも読み取れる。

また、「国語科の改訂の趣旨及び要点の『②情報の扱い方に関する指導の改善・充実において』」は、次のように解説している。

一方、中央教育審議会答申においては、『教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表現された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。』と指摘されているところである。（p8）⁴⁾

また、次のようにも示している。

③学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

中央教育審議会答申においては、ただ活動するだけの活動にならないよう、活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかを示すために、現行の学習指導要領に示されている学習過程を改めて整理している。この整理を踏まえ、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。（p9）⁵⁾

つまり、教科書の文章が読み解けていないのに、「生き物絵本をつくろう」や「作品の紹介ショーウィンドー」等、表現を優先させた言語活動へ誘うことへの警鐘であろう。これを、「活動あって学びなし」という向きもある。

以上のことから、「国語で正確に理解した上での適切な表現力の育成する」という新学習指導要領の国語科の目標を念頭に、本年度学生の作成した「読むこと」の学習指導案を分析し、有効な発問とは何かを論じる。

2 「読むこと」における学生の作成した学習指導案

1) 「読むこと」の授業が難しいと全員が答えている

本年度の「教科科教育法 国語」の授業では、受講者全員、3領域の模擬授業を行うことを課している。つまり、1人3回は模擬授業を行う。

すべての模擬授業が終わった段階で学生に、「国語科の3領域『話すこと・聞くこと』、『書くこと』、『読むこと』で模擬授業を行って、一番難しいのはどの領域のか。」と尋ねた。全員が「読むこと」と答えた。

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」は、身近な題材が教材になり、児童の表現が主体となることが多い。学習指導案も作りやすいのだと考えられる。

それに比べて、「読むこと」の授業では、テキストに書かれた言葉について検討し、内容を正確に読み取らせることを求められる。1で示した、中央教育審議会の答申「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表現された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。(下線は引用者による。)」⁴⁾の指摘の部分に当たる所である。学生自身も、「適切な表現」の授業より「正確な理解」の授業の方が難しいと考えているのである。

では、「読むこと」の授業で学生はどんな学習指導案を書いているのか、発問を観点に3つに分類し、分析してみる。そして、「正確な理解」のための「読むこと」の授業を考察したい。

2) 「読むこと」における学習指導案には詩歌を教材にする

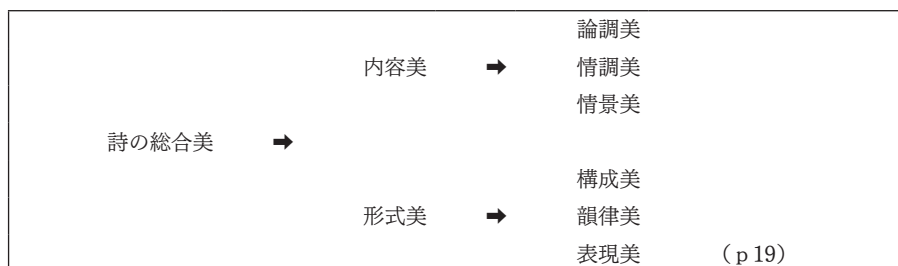
「教科科教育法 国語」の授業では、最終の15時間目に詩歌の学習指導案の作成を課している。時間は90分。詩歌は事前に示さず、いきなり指導案を書くものである。(90分の中には、学習指導要領についての設問もあり、90分すべてが指導案作成に充てられるわけではない。)

物語文や説明文ではなく、詩歌の指導案に発問を入れて書かせる意図は次のとおりである。

- ・詩は1・2時間で指導できるので、物語文や説明文よりも学習指導案が作りやすい。
- ・物語文や説明文に比べて短いので、内容(情報)と形式(構成・表現)が捉えやすい。
- ・発問を書かせることで、授業での話し言葉を意識させることができ、国語科の授業力を評価することができる。

3) 詩歌の構造と発問

野口芳宏氏は『詩歌の鑑賞 授業の教科書』の中で、詩歌の構造について次のように図示している。



6)

また、発問について次のように述べている。

発問と質問とは別物である。質問というのは、答えが分からない者が解を知りたくて問うものである。問うものには、その答えは分かっている。

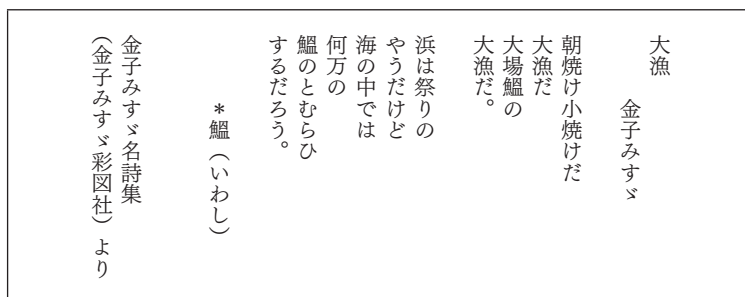
これに対して発問というのは、答えが分かっている教師が子どもに考えさせ、学力を形成するために形式上問いかける「問い」である。問われたことを考えていく間に子どもには様々な知的能力が開発されていくことになる。

問われなければ見過ごし、見落としてしまったであろうことに気づき、新たな価値を発見していく。あるいは、問われなければそれによしと考えてしまっていたことがらが揺さぶられ、深められ、正されていく。その故にこそ読解や鑑賞を深め、豊かにしていく上で最も大切かつ不可欠なのが、この「発問」なのだ。「読むこと」の授業では最も大切なのがこの「発問」である。(p 28) 7)

「読むこと」の授業において、最も大切だとされる発問を入れた学習指導案を作成させた。

教材は「大漁」(金子みすゞ)である。8)

(設問) 詩の内容と形式を踏まえて、4年生を想定し、「読むこと」の1時間の学習指導案を、発問を入れて書け。



4) 学習指導案(以下指導案と書く)の分類と分析

作成月日は2017年7月28日、受講学生は53人である。学習指導案を、筆者が次の3つに

分類した。

- A 正確に読み取らせる発問ができている学習指導案
 - B 読み取らせることは認識できているが、発問が確立されていない学習指導案
 - C 活動はしているが、何を読み取らせようとしているのか確立されていない学習指導案
- 次に、A・B・Cについて、具体例を示し、学習指導案を分析する。

A 正確に読み取らせる発問ができている指導案例

指導事項 ・連のまとまりに気を付けて音読しようとする。(関心・意欲・態度)

・「とむらひ」は、相手を想って行われていることを読みとることができる。

(読むこと)

学習活動	指導上の留意点 (★評価)
1 音読する。 ・教師の範読に沿って一斉音読させる。 ○この詩を2つに分けて読みました。どことどこで分けて読んだでしょう。 ・1行目から4行目と5行目から10行目 ○この詩のまとまりは、いくつありますか。 ・2連 2 連を意識して音読する。 ・連の区切りで2拍とる。	・行数で区分させることで、だれもが授業に参加できるようにする。 ・まとまりを連と言い、2連あることに気付かせる。 ・「息を吐く」「息を吸う」で2拍とることを伝える。 ★声を合わせて、連のまとまりに気を付けて音読しているか。
3 内容を読みとる。 ○浜と海では様子は違いますか。 ・浜…祭りのよう 楽しい、嬉しい様子 ・海のなか…とむらひ 悲しい様子 ○「とむらひ」では、どんな言葉が交わされたでしょうか。 ・人間め ・悲しいよ ・死んだらイヤ ・ありがとう ・つらいよ ・生まれ変わってね 4 詩を読み、気づきや考えを書く。	・「○連の○行目を見て考えました」と発言することで、根拠を示した発言をさせる。 ・「とむらひ」はとむらう相手を想って言葉が交わされていると、まとめる。 ・とむらいの主語は、「鱈」であろうとまとめる。 ★作者の相手(鱈)を想う深い心情を読み取ることができたか。

分析

この指導案のよい点は2つある。

1つ目は、連を意識させる発問があることである。連を意識させることで詩の形式が理解される点にある。

2つ目は、形式を意識させたうえで、「浜と海の中では、様子が違いますか」と発問し、それぞれの内容を対比して理解させようとしている点にある

また、「とむらひ」のという言葉を理解させるために、辞書的な意味をとうのではなく、「ど

んな言葉を交わしたか」「かわしている主語は」と、4年生に合った発問をしている。人間に獲られた鰻に想いを寄せるという展開の仕方が、詩の心情に迫っていると考えられ、よい指導案と言える。

B 読み取らせたいことは認識できているが、発問が確立されていない指導案

指導事項 ・詩を読んで、自分の考えを持つことができる。

学習活動	指導上の留意点（★評価）
1 音読をさせる。	・しっかりと全員が声に出して読んで知るか（★）
2 「浜は祭り～するだろう。」の部分を読んで、気づいたことを書こう。	・感じたことなどを個別に質問し、書きにくい児童を支援する。
3 「鰻のとむらひ」とは何か。 だれがするのだろう。	・グループ対話にする。 「とむらひ」の意味を理解し、だれがどのようにするのか（★）
4 浜と海で何が起こっているのかな？ どう違うのかな？	・「とむらひ」をするのは鰻なのか他の魚なのか、或いは海なのかそれぞれの児童の感じたものを共有できるようにする。 ・浜と海では、「祭り」と「とむらひ」が行われていることをとらえさせる。

分析

学習活動の流れに深まりが足りない。発問の組み立て方に課題があるからだ。

「2『浜は祭り～するだろう。』の部分を読んで、気づいたことを書こう。」が、それである。書いた後どうするのか示されていない。活動させた後、指導者がどう集約するのか授業には必要である。

3の「とむらひはだれがするのか」は詩の中に書かれていない。「海の中では」と書いてあるだけである。したがって、答えはない。答えのない発問はしないほうがよい。児童を混乱させるだけである。

4の浜と海との様子の違いを問う発問はよい。「祭り」と「とむらひ」という対比に気づかせることができるからだ。しかし、最後に問うのではなく、2に入れるべきであろう。

何を読み取らせたいのか自分では分かっているのだろうが、それが発問にまで完成されていないと言える。それは、指導事項にも表われている。

C 活動はしているが何を読み取らせるのか示されていない学習指導案例

指導事項 ・詩の情景をイメージすることができる。

・詩の内容を伝えるために工夫して読むことができる。

学習活動	指導上の留意点（★評価）
1 詩の情景を思い浮かべながら、範読を聞く。	・児童が情景を思い浮かべやすいように、抑揚をつけてリズムよく範読する。
詩の内容や情景を、伝える音読をしよう。	
2 詩を音読する。 ・一斉に音読する。 ・個別に音読する。 ・ペアで音読する。 ・4、5人のグループを作って音読する。 詩の情景をグループで話し合う。	・しっかりと通る声で読んでいるか。（★） ・詩の情景がうかぶ発言ができているか。（★） ・人によって様々な感じ方や表現があることに気づかせる。 ・自分の班の工夫を発表してから、音読させる。 ・どのような工夫があったか発表させる。 ・読み方で詩の感じが変えることに気づかせる。
3 読み方を工夫しよう。 それぞれの班の音読発表を行う。	
4 詩の発表をして、感じたことや気づいたことを書く。	

分析

「詩の内容や情景」とは何か、指導案のどこにも示されていない。「みんな感じ方がちがう」と書いているが、児童が感じ方をすべてよしとするのだろうか。児童が間違って読み取っていた場合も「みんなちがうからいい」と肯定するのだろうか。詩の形式についての指導も、内容についての指導もなく、ただ音読させることになるだろう。「活動あって学びなし」になり、正確に読み取る授業とは言えない。

3 学生が書いた「読むこと」の指導案を3つに分類した結果

学生の指導案を分類すると、

Aのように、形式や内容を考えさせる発問ができている指導案は、24%

Bのように、読み取らせたいことは認識できているが、発問が確立されていない指導案は23%

Cのように、活動はしているが何を読み取らせるのか示されていない指導案は52%、であった。（総数53名）

4 おわりに

「読むこと」の指導で大事なことは、正確に理解することである。1で引用した通りであるが、再度引用する。

新学習指導要領では、「正確に理解し適切に表現する」と順序が逆になっている。

このことについて、『小学校学習指導要領解説 国語編 平成26年6月』（文部科学省）では、「**正確に理解**する資質・能力と、**適切に表現**する資質・能力とは、連続的かつ同時に機能す

るものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要であることから、今回の改訂では、「正確に理解」、「適切に表現」という順に示している。（下線は引用者による。）」と解説している。（p 11）⁹⁾

下線部の通り、新学習指導要領解説では、自分の考えを形成するためには、国語で表現された内容を理解することが必要であると述べている。つまり、新学習指導要領の目標を達成するためには、Aの指導案のように、連を教え、連ごとの内容を対比させ、重要な語句の意味を考えさせる授業が必要であると考え。Cのように、どう音読すればいいのか学ばせずに、活動をさせると、一見、活動はできているように見えても深い学びには至らない。「活動あって学びなし」になってしまうのではないだろうか。

また、次の記述にも留意しなければならない。

中央教育審議会答申においては、「『教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表現された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。』指摘されているところである。」とある。（下線は引用者による。）¹⁰⁾

学生の学習指導案の分類からも、「正確な理解」のできる授業展開に困難が見える。だから、「読むこと」の授業が難しいと応えるのであろう。それは、前述の中央教育審議会答申の下線部文にも頷ける結果でもある。

何を問うと児童は「深い学び」ができるか考えるためには、指導者自身の「深く正確な読み取り」ができなければならない。これは、わずかの教材の指導案を書いただけでできるものではないが、国語科の授業力として重要であるだけに、教員養成大学での教育法としての指導は大切である。また、小学校教諭になってからも本人が研鑽を積みねばならないことでもある。

来年度は、Cの学習指導案をBやAに上げていくような国語科教育法にするためにシラバスを変えていきたい。

*引用文献

1) 文部科学省 (2017)『小学校学習指導要領解説 国語編 平成29年 6 月』

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_/_icsFiles/afieldfile/2017/08/02/1387017_2_1.pdf (アクセス2017/09/05)

2) 文部科学省 (2008)『小学校学習指導要領解説 国語編 平成20年 8 月』東洋館出版社

3) 文部科学省 (2017)『小学校学習指導要領解説 国語編 平成29年 6 月』

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/08/02/1387017_2_1.pdf (アクセス2017/09/05)

- 4) 文部科学省 (2017)『小学校学習指導要領解説 国語編 平成29年6月』

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/08/02/1387017_2_1.pdf (アクセス2017/09/05)

- 5) 文部科学省 (2017)『小学校学習指導要領解説 国語編 平成29年6月』

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/08/02/1387017_2_1.pdf (アクセス2017/09/05)

- 6)『詩歌の鑑賞』(野口芳宏編著 さくら社)

- 7)『詩歌の鑑賞』(野口芳宏編著 さくら社)

- 8)『金子みすゞ名詩集』(金子みすゞ 彩図社)

- 9) 文部科学省 (2017)『小学校学習指導要領解説 国語編 平成29年6月』

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/08/02/1387017_2_1.pdf (アクセス2017/09/05)

- 10) 文部科学省 (2017)『小学校学習指導要領解説 国語編 平成29年6月』

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/08/02/1387017_2_1.pdf (アクセス2017/09/05)